校長室雑記

笑ってごらん

第 598 号　H.29.10.3 発行

～今日のことば～　　（ひすいこたろう）
“wonderful（素敵）”という英語は“wonder（不思議）”が“ful（いっぱい）”って意味。人生は不思議に満ちている。だから素敵なんです。

◇◆陸上競技やサッカーのオリンピックや世界大会の TV 中継を観ていると、1 位を勝ち取ったランナーや得点を決めた選手が地面にキスをしたり、胸の前に両手を組み祈りを捧げるシーンを見かける。栄冠に輝いたのは言わずもがな本人の弛まぬ努力の賜物であるが、当の本人にとってはそうではないようだ。「これまで病気や怪我で競技を離れることなく、ずっと練習に取り組んで来られたのは『神のご加護のおかげ』である」として、その感謝の意を込めての行為であろう。宗教の違いによる感謝の気持ちの表現方法に違いはあれど、栄冠を掴んだ瞬間のトップアスリートの思いに大差は無いと思う。◆日本では正月に初詣に出かける風習がある（神道以外の宗教徒なのに神社へ参詣に行く、そのことの是非論は割愛する）。参拝客の大半が「これからの一年がいい年になりますように」などと思い思いのお願い事を添えて柏手を打ち拝礼する。それぞれの神社に居られる神様にとっては、たくさんの参拝客のお願い事を受け止め、処理するだけでも大変であろう。　◆新しい月、10 月を迎えた。旧暦で 10 月は通常『神無月』という。10 月は全国の八百万（やおよろず）の神様が、一部の留守神様を残して出雲大社（島根県出雲市）へ会議に出かけてしまうために、神様が出かけてしまう国では神様がいないので『神無月』、反対に出雲の国では神様がたくさんいらっしゃるので『神在月』という。年に一度、出雲大社に集まった神様たちは、人の運命や縁（誰と誰を結婚させようか）などを話し合う。遠く離れた者同士が知り合い、結婚するようなことがあるが、この会議の結果なのかも知れない。そのため、出雲大社は縁結びの総本山である。このほかには、来年の天候、農作物の出来なども話し合われているそうだ。出雲大社の祭神は大国主大神（おおくにぬしのおおかみ）。天を象徴する天照大神（あまてらすおおかみ）に対し、大地を象徴する神様である。大国主大神にはたくさんの子どもたちがおり、その子供たちを全国各地において国を管理させた。そして、子どもたちが年に一度出雲大社に戻り、その年の報告や来年の相談をした。やがて、他の神様も一緒に出雲に集まるようになったといわれている。前出の留守番をする神様には「恵比寿神」・「金毘羅（こんぴら）神」・「竈（かまど）神」・「道祖神」などがおり、こうした留守神様を祭るために、10 月に『恵比寿講』を行う地方もある。〈私の根っこプロジェクト「日々是活き生き　暮らし歳時記」より抜粋・転載〉。　◆10 月に総本山に一年の報告に行くということは、前月 9 月が決算月ということになる。「願い事の受信〇〇件、解決□□件、次年度持ち越し保留△△件、却下・無対応××件･･･」みたいなものか？　そして 10 月末、出雲大社から戻った神様は、留守を任せておいた留守神様から「この一ヶ月間にこんなワガママな願い事がありましたよ。でも、これは聴かなかったことにしときましょう」などの報告や進言を受けているのだろう。それはそうと、遠く離れた者同士の縁結びができるくらいの力を持つ神様なんだから、わざわざ出雲へ集まらなくても在国のまま「ネット会議をする」みたいなことくらい簡単なのではないかと思うのは私だけだろうか。

～・

感謝道

◇◆高校説明会のために鹿児島市内のある中学校に赴いた。校長先生にご挨拶した後、体育館へ案内された際、凜とした空気感に包まれた。生徒数の多い学校でありながら、全員の聴く姿勢が整っており、大変話しやすかった。全員の自覚と協力の賜物である。